

# 「家がいいね」 第11号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2005.4.13

田を起し、水を張り、田植えを待つ時期になりました。普段は水の通わない水路が満たされ、その分、川の流れが細る時でもあります。まもなく、遅めの桜吹雪が散る中、「山が笑い」新緑も芽吹くでしょう。まだ花粉症に泣く私ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。新号をお届けします。

そう言えば、3年です

平成14年4月15日(月)が、当院の誕生日でした。恐る恐る玄関を開けて、毎日一人一人と「お客さま」を迎えた気持ちを思い出します。不思議な事に、外来の最初のお二人は「二見さん」と思いきや、1年目・2年目とお戻りになられ、味のある人生を毎回披露される方々になられました。往診の1番目の方は、入院を時々しながらも在宅生活を続けておられるリーダー役です。

これらの方々に見守られながら、3年目があると思います。世間では、仕事に疲れ自らを嫌だと感じ易い時期を「3日・3月・3年」と言います。幸い、私と当院の3年は、「まだ」の先も、何かが出来そうだと「思う節目になりそうです。積み重ねる気持ちで、続けてゆきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 痴呆症II認知症で思うこと

外来でも在宅でも、「痴呆症状で困る」との相談を受ける事が多くあります。ところが、落ち着いたなあと思う時期に、改めて感じるのには、認知症の本人は、実は変わっていないのです。何が変わったのでしょうか。本人の周りの人達の関わりや緊張度が変わったのではないかと思えます。「これではいけないと思っていたんですが、これでもいいんですね」と、落ち着いた家族は言われます。痴呆症状は緩和できます。その方法についてはどうぞ、直接スタッフにお問い合わせ下さい。

この街で生き続けるために

いくつかの機会で、在宅医療の経験をお話するうちに、「最期まで自宅で過したい」という思いが成就するための、日常の努力が大切な事を知りました。医療・介護・福祉はそのための大事な柱ですが、それよりも日常的に「こうあって欲しい」という課題が、毎日の暮らしの中に山積みになって断念していると思えます。自分の心の中に閉じ込めないで、どこかで愚痴でも良いですから、話す機会が必要と生きてきました。政治がどうと言うよりも、「ああ、そう言う事は、私もそう思っかねえ」と言える場が必要なのだと思うのです。

そんなことから、このたび「話そう会 この街で暮らし続けるために」(仮称)を、一度呼びかけて開いてみたいと思うに至りました。参加のための特別の条件はありません。日時・場所も未定ですが、同じ思いを抱いて居られる方は、ぜひとも発起への御賛同と御協力をお願いします。

連絡先は、当院まで。

## お知らせ

みえ生と死を考える市民の会 講演会と総会  
時：平成17年6月5日(日) 13時から  
所：三重県文化会館 中ホール(津駅西口より)  
題：「なせ家なのか」

## ホスピスケアの原点を考える

講師：川越厚(かわごえ こう) 医師  
在宅ホスピスの草分け、川越医師の活動は、東京の下町で20年続けています。

講演会参加料 当日券 千円

( 会員 500円 ) 前売りは各百円引き  
いずれも当院で取り扱います。



いせ在宅医療クリニック  
自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県度会郡御園村高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105  
mail [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)  
HP <http://tcp-ip.or.jp/~takuro>